

聖灯祭によせて

看護学部長 鈴木恵理子

第1回聖灯祭の開催おめでとうございます。
短期大学部、社会福祉学部、看護学部がひとつの大学になつてはじめての学生主催の大きなイベントが成功することを心からお祈りしています。

ところで、大学祭と聞くと自分の学生時代の経験が甦ってくるのですが、高校、大学をとおして、私の学校祭は、多くの思い出にあふれています。高校の時にはクラスで夜間中学を取材してまとめたり、女性の社会的地位について友達5人で教室いっぱい展示をしたこともありました。大学1年では死刑制度について一人で調べて発表しました。別に社会問題を扱うサークルにいたわけではないのですが、今にして思えば、けっこう問題意識が強かったのでしょう。大学2年からは山岳部に所属した関係でもっぱら資金稼ぎに転じ、おでん屋、フランクフルト屋と、どちらもけっこう味に凝って儲けました。

ふだんの授業では鳴かず飛ばずで、目立たないように息をひそめている学生だったのに、こういうイベントとなると張り切る。いつもはおとなしくしてエネルギーを蓄えておき、いざ自分の関心のあることに向かったときには一気にそれを使っていたのかもしれない。

最近の学生さんも、授業中にはけっこうエネルギーを蓄えている人が多いのではないのでしょうか。そのエネルギー

をどこに使うか……。使わずにとっておこうと思つても、エネルギーの蓄えはいつのまにか減ってしまいます。たまにはカラッポになるくらいに何かにエネルギーを使つてみてはどうですか？ 聖灯祭が若いみなさんのエネルギーで、あかあかと灯火のように燃え上がすることを願つてやみません。